

養浜砂採取地としての 相模川河口砂州の現地調査

一般財団法人土木研究センター

なぎさ総合研究所長兼

日本大学客員教授理工学部海洋建築工学科

工博 宇多高明

Dr. Takaaki Uda

はじめに

- 相模川河口砂州からの養浜砂の調達の可能性について検討するために、2025年9月25日、河口砂州の状況を現地調査により調べた。現地調査は、相模川河口の左岸近傍において行った。
- 図-1には河口砂州の全体状況と写真撮影地点（St.1～St.9）を示す。
- この調査では、河口砂州の左岸側の上流にあるlagoonに沿って繁茂する特定外来生物のナガエツルノゲイトウの根や茎の混入を避けつつ砂を調達する方法について調べた。
- 河口砂州の上流側に繁茂するナガエツルノゲイトウは、茎の断片からも発根して定着する特長がある。したがってナガエツルノゲイトウの根や茎の混入を避けつつ砂の採取を行う必要がある。

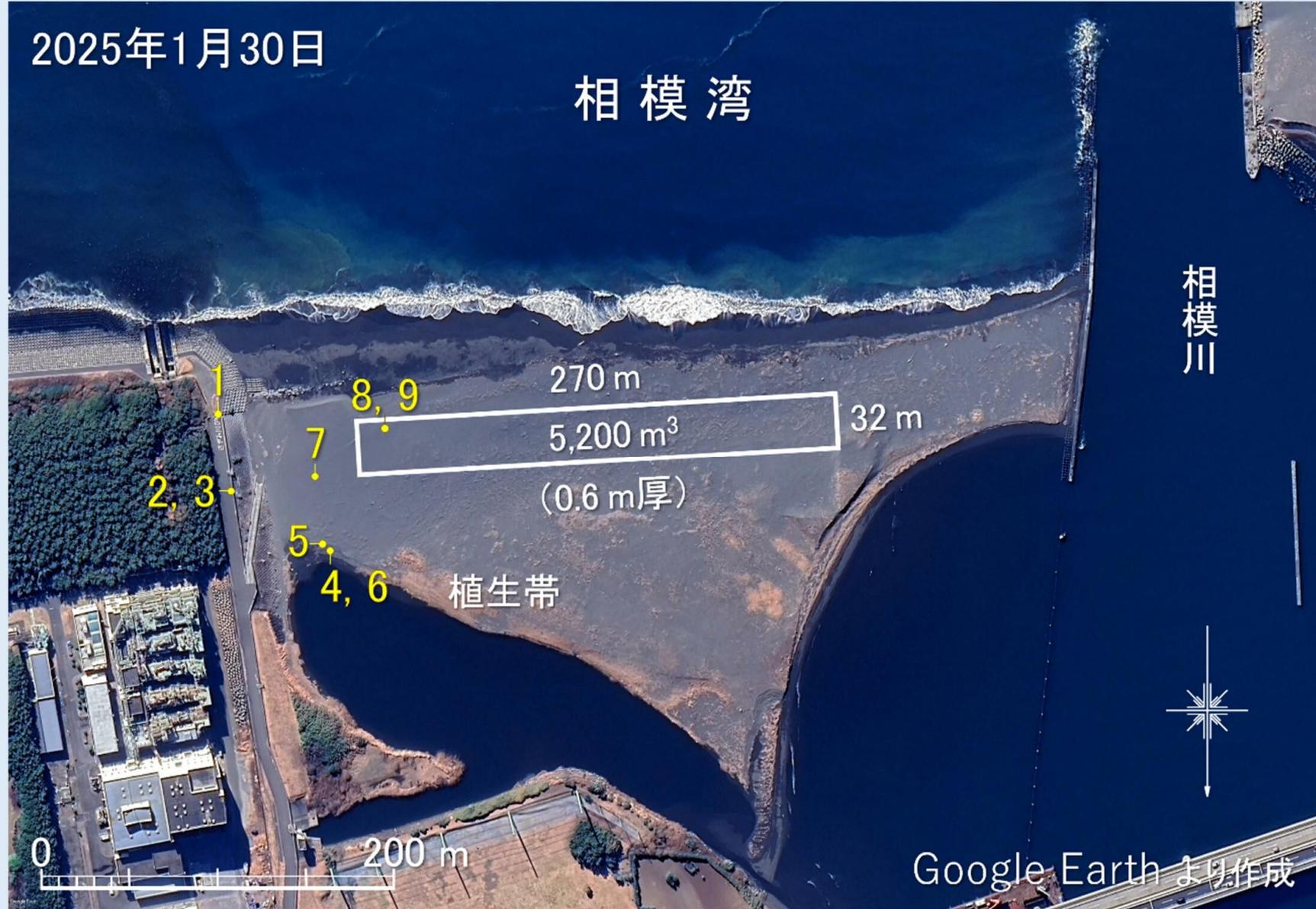


図-1 相模川河口砂州の衛星画像と写真撮影地点 (St.1~St.9)



写真-1



写真-2



写真-3



ナガエツルノゲイトウ



ナガエツルノゲイトウ

写真-5



写真-6



ツルノゲイトウ

写真-7



写真-8

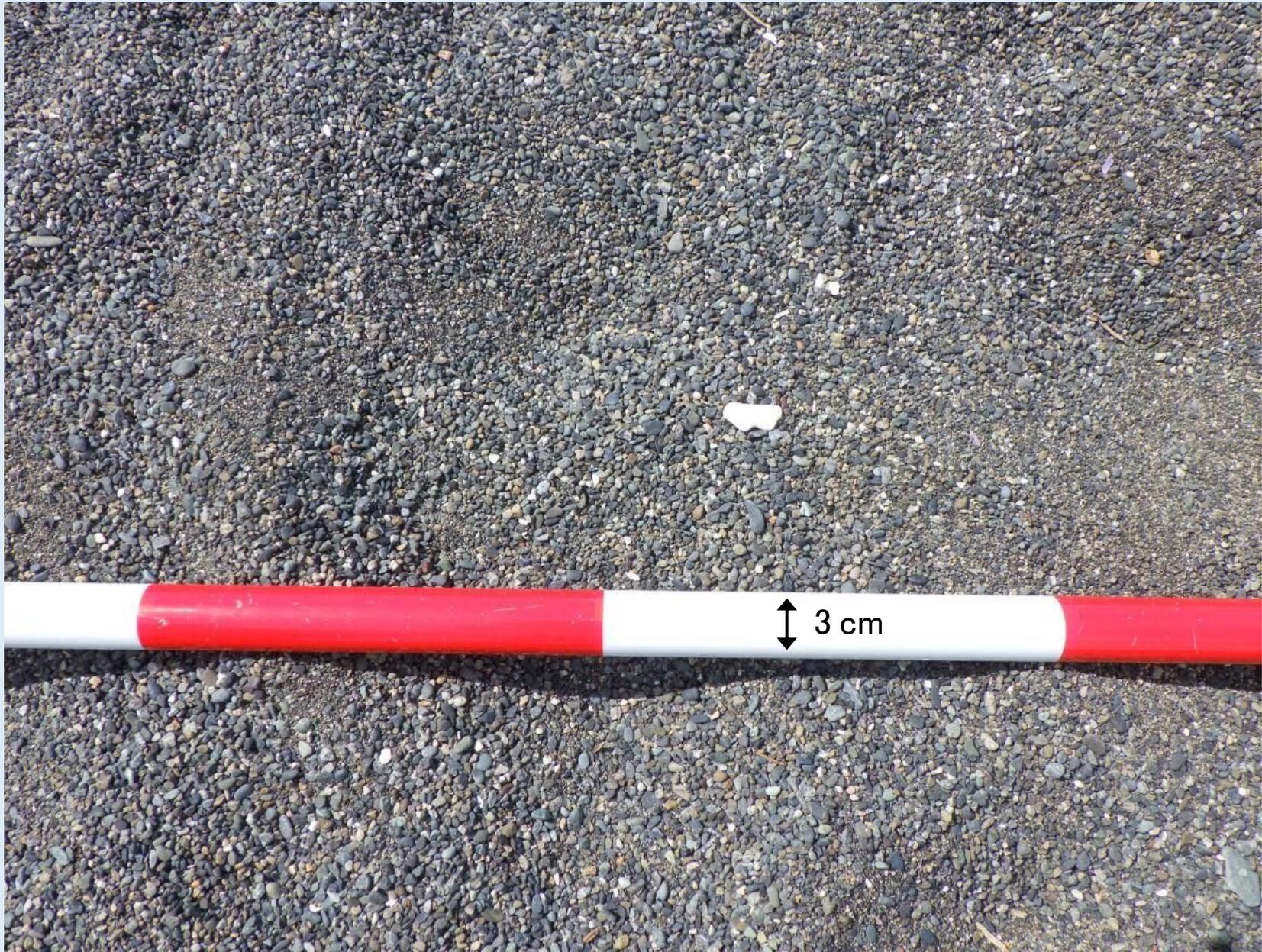


写真-9

まとめ

- ① 相模川河口砂州の現地調査によれば、河口砂州のバーム頂から背後の陸向き斜面において砂を採取し、それを養浜材として活用することが有効と考えられた。
- ② 検討の結果、図-1に模式的に示すように、汀線と平行に沿岸方向に270 mの範囲で、幅32 mの矩形区域において0.6 m厚で砂を採取するとすれば採取砂の総量は約5,200 m³となる。
- ③ 一方、バーム背後の斜面のうち上流側に残されている水路に近い部分には特定外来種のナガエツルノゲイトウが生育しているが、その茎や根が養浜砂に混入するのを避けるためそれらを系外へ持ち出さないよう注意する必要がある。